
九州支部

ニュース

No. 60

日本実験動物技術者協会

— (ご案内) 第 52 回日本実験動物技術者協会総会 熊本大会 2018—

日本実験動物技術者協会九州支部事務局

第 52 回日本実験動物技術者協会総会が、平成 30 年 10 月 4 日 (木) ~10 月 6 日 (土) に熊本で開催されます。多数の会員の方々のご参加をお待ち致しております。

会 期：平成 30 年 10 月 4 日 (木) ~10 月 6 日 (土)
会 場：「市民会館 シアーズホーム 夢ホール」 熊本市中央区桜町 1 番 3 号
「熊本市国際交流会館」 熊本市中央区花畑町 4 番 18 号
大会テーマ：「3R のさらなる実践技術者の視点から」
大 会 長：野口和浩 (熊本大学大学院 生命科学研究部生体微細構築学分野)
運営事務局：〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 1-3-6 第 3 博多借成ビル
株式会社コンベンションリンクージ内
TEL : 092-437-4188 FAX : 092-437-4182
E-mail : jaeat2018@c-linkage.co.jp

大会ホームページ： <http://www.c-linkage.co.jp/jaeat2018/> (開設予定)

【予定】

演題登録期間 : 平成 30 年 4 月 4 日 (水) ~5 月 31 日 (木)

事前参加登録期間 : 平成 30 年 4 月 4 日 (水) ~7 月 31 日 (火)

詳細は随時配信させていただきます。

第 37 回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会
第 35 回九州実験動物研究会総会
第 10 回実験動物ジョイントセミナー・イン九州
開催のご報告

株式会社新日本科学 安全性研究所
若松 真矢

第 37 回日本実験動物技術者協会九州支部（以下、実技協九州支部）研究発表会は、第 35 回九州実験動物研究会（以下、九実研）総会との合同大会として、平成 29 年 11 月 11 日（土）、12 日（日）の 2 日間にわたり鹿児島県指宿市の指宿ベイヒルズ HOTEL&SPA にて和泉博之（株式会社新日本科学 前臨床研究推進本部）を大会長として開催されました。九州の南端での開催にも関わらず、本大会には 119 名（スタッフおよび招待講演者含む）もの多くの方にご参加をいただきました。多数のご参加、誠にありがとうございました。

ここ数年は土曜日 1 日での開催形式でしたが、今回は交通アクセスを考慮して、土曜日午後開始し日曜日正午解散の計 2 日間開催としました。大会・懇親会・宿泊（温泉含む）・朝食と、すべて一つの施設で完結するという形式、一般演題は全て口頭発表での実施、九州実験動物研究会 産学連携検討委員会により賛助会員トピックス（1 社）発表、多くの器材展示（8 社）のご企画、カジュアルな服装でのご参加など、前例のないお願いばかり差し上げました。関係者の皆様にはご不便ご苦勞をお掛けしたにも関わらず、多くの温かいお言葉をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

本大会は、11 日（土）に、九実研及び実技協九州支部合同特別講演『なぜ「利右衛門」なのか』[坪井詳忠先生（指宿酒造株式会社）]、賛助会員トピックス『2016 年 2 月発売の実験動物用翼付採血針及び動物用保定器のご紹介』[池田常雄先生（日本クレア株式会社）]、九実研一般演題 7 演題、実技協九州支部一般演題 2 演題及び日常業務の最前線 2 演題の発表が行われました。翌 12 日（日）には、広東省実験動物学会特別講演『MicroRNA-378 enhance radiation response of a U87 glioblastoma in vivo ectopic and orthotopic implantation model』[李文徳先生（広東省実験動物監視所）]、九実研一般演題 3 演題、実技協九州支部日常業務の最前線 1 演題の発表が行われました。また大会終了後に、第 10 回実験動物ジョイントセミナー・イン九州シンポジウムとして『動物愛護管理法等を取り巻く現状の最新情報について』（九実研、日本実験動物協働組合九州支部、実技協九州支部共同企画）を浦野徹先生（大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所）及び八神健一先生（筑波大学医学医療系）にご講演いただきました。多様な分野から数多くの興味深いご発表・ご講演、誠にありがとうございました。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたりご支援をいただきました指宿酒造株式会社様に、この場をお借りして深くお礼申し上げます。来年度の大会は、大会長奥山みなみ先生（大分大学）のもとで開催されます。「日本一のおんせん県おおいた ♪ 味力も満載」（大分県観光サイトより抜粋）の大分で皆様に再びお会いできるのを楽しみにしております。さらに、来年 2018 年 10 月 4～6 日には熊本での第 52 回実技協総会全国大会も控えております。役員はもちろんのこと実技協九州支部会員、賛助会員の皆様で一致団結し、九州の素晴らしさを世界に伝えられましたら、望外の喜びです。



—平成29年度(第22回)九州地区実験動物技術研修会の開催報告—

平成29年9月2日(土)、3日(日)の2日間、熊本保健科学大学において、第22回目の九州地区実験動物技術研修会(基礎コース)が開催されました。定員16名に対して、研修会へ19名という多くの方にご参加いただきました。受講者より研修会受講後の感想文が寄せられていますので、下記に紹介致します。

～平成29年度九州地区実験動物技術研修会(基礎コース)を終えて～

鹿児島大学 立部 誉

第22回九州地区実験動物技術研修会を終えて、最初に感じたことは、実験動物2級技術者の資格の取得を考えられている方に大変良い研修会だったと感じました。2級技術者用の教科書に載っている機材の写真でわかりにくいものもあつたりしましたが、此度の研修では実物の機材の展示もしてあり、実物を確認しながら説明をしていただいたので、大変勉強になりました。また、マウス、ラット、モルモット、ウサギと、動物種も多くて、一気にいろんな動物種を覚えたい方にもちょうど良い研修会だったと思います。

宮崎大学 伊海 結貴

今回の研修を通じて、動物の扱い方、実験の手技について大変多くの事を学ぶことができました。ハムスター、ラット、モルモットは今回の研修で始めて触れた動物であり、どの動物もよく鳴き声をあげて一見すると気性が荒く扱いが難しそうでした。初めは触るのが少し怖いと思っていましたが、講師の先生方の説明通りの手順で触れると噛まれることもなく、比較のおとなしいままに扱えることができました。様々な動物の扱い方(馴化等)は他のげっ歯類にも応用ができそうだと思います。

また、投与や採血、解剖の技術に関して、先生方の動きは迷いがないと感じました。動物のことをよく知っていて(扱う動物は違うのかもしれませんが)、普段の経験があるからこそ迷いがないのだと思います。私の場合はまだ、針を刺すのにも安定しなかったり震えたりして刺す場所などにも迷いがありますが、今回その辺りの技術もご指導いただきましたので、先生方のようなすばやく丁寧な動きに近づけるよう、何度も練習する心意気です。解剖に関して、臓器を取り出す順番や切込みの入れ方など今まで私がしてきたものと異なる順番や方法の解剖技術を知り、さらに「解剖は目的により実施方法が異なる」ことを教えて頂き、動物の解剖も一様ではないことを学びました。今回の研修会で学んだ多くの技術や知識を自分のものにできるようにこれからも練習を続けます。

株式会社 新日本科学 鮫島 大地

九州地区実験動物技術研修会を終えて私が感じた事は、自分の手技を見直せた事、普段することのない手技、扱わない動物に触れることが出来たこと、さらに講師陣の丁寧な指導のお陰で今まであいまいだった手技を確立することが出来ました。

今回の研修会で学んだことを普段の業務に活かしたいと思います。

株式会社 新日本科学 宇都 絵理奈

研修会では大変勉強になる事ばかりで参加してよかったです。私は普段は検査業務で実験動物に触れ合う機会がありません。そのため、本研修でどのように投与・採血が行われているのか詳しく指導していただき、多くの技術・知識を取り入れることができました。また、モルモットやハムスターなど会社ではなかなか扱わない動物でも保定の練習ができ、幅広い動物種の特性を学ぶことも出来ました。今年の11月には実験動物2級技術者認定資格の実技試験もあるため、試験を乗り切るための基礎を学べたことはとても心強く、研修の参加者の中で同じ試験を受ける方ともお話でき、試験へのモチベーションが高まりました。

クロレラ工業株式会社 渡口 啓史

これまであまり実験動物の取扱いを学ぶ事が少なかったため、今回の実験動物技術研修会へ参加させていただき、実験動物に関する多くの知識や技術が学べて非常に勉強になりました。

実験させていただいている動物たちをどれだけ優しく取扱い、さらにその命を無駄にしないように有意義な実験データとして活用させていかなければと感じました。

本当に、これからまだまだ知識も技術も身につけなければいけない事が多いということを再認識するよい機会となり、このような貴重な場を設けていただき誠にありがとうございました。学んだことを今後の実験に活かし、いつの日か実験動物技術者の資格の取得することを視野に入れていきたいと思いました。

クロレラ工業株式会社 大塚 愛海

この度は実験動物技術研修会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

ほとんど実験動物を扱うことが初めてだったため、内容に付いて行けるかどうかとても不安でしたが、講師の方々から丁寧にご指導頂き、とても身になった研修会でした。

その中でも最も難しく、記憶に残っている項目が投与や採血でした。ネズミ等の細く小さな血管に針を入れる事がとても難しかったです。

今回は実験動物の基礎を学べると言う事で勉強のために参加させて頂きましたが、今後実験動物を扱う際、この研修で得た知識を利用して行きたいと思います。

そして、懇親会はとても楽しかったです。普段関わることのない職種の方ともお話しすることができる場だったので、とても良かったと思います。貴重な経験をさせて頂いたあつという間の2日間でした。ありがとうございました。

株式会社 アニマルケア 牧山 詩織

実験動物技術者2級の試験を受けるにあたり、さらなるスキルアップのため今回の研修に参加させて頂きました。初めは現在の自分の知識と技術に対してどれだけできるか不安でしたが、講義が始まってしまうと、その面白さにのめり込んでいました。講義では、法律改正の中で今日本で起こっている問題の1つとして実験動物使用施設に対しての情報公開に対する提示不足や、海外における実験動物の取り扱いに対しての現状を知ることが出来、普段では聞くことができない貴重な話を聞くことが出来ました。技術練習でも、基礎的なことから始まり、今まで自分が扱っていなかった動物の手技や、2級を受けるにあたってのポイントやアドバイスも頂き、大変有意義なものになりました。また、参加している他社の方々との情報交換や意見交換ができて良い刺激となりました。

最後に、この研修会を開いて頂いた関係者の皆様、講師の皆様にお礼を申し上げます。

株式会社 アニマルケア 井手 佑輔

今回の研修では2日間という短い時間でしたが多くのことを学ぶことができ、知識、手技の双方でスキルアップができたと感じました。

マウスでは、普段担当していることもあり復習のよい機会になりました。投与などの手技では尾静脈投与が苦手です。更に練習が必要だと感じられ、また他の動物種に関しても知識、手技ともに勉強不足を痛感し、今まで以上の学習が必要だと思いました。

今回研修で学ばせて頂いたことは大変貴重な経験となり、この体験を忘れることなく常に能力向上に努め、動物実験技術者2級の取得や仕事へ役立てたいと思います。

講師の皆様有り難うございました。

株式会社 LSIメディエンス 細井 紫絹

今回の研修会では、実際に動物に触れ動物の反応を見ながら基本的な取扱いを学ぶことができ、とても貴重な時間となりました。

私は今までほとんど動物実験を行ったことがなく、初心者として参加しましたが、とても充実した研修だったと感じました。普段扱うマウス・ラットの取扱いや手技の確認をするとともに、あまり扱わないウサギやモルモット、ハムスターの取扱いを講師の方にはじっくり教わることができました。違う動物種の取扱いを学ぶことで普段行っている作業の見直しにもなり、良い経験だと思いました。実技を行う中で、講師の方からだけでなく同じ班になった受講生ともコツや意見

を交換できたことも今回の研修の良い点だと思います。所属の違いで動物の取扱い方の着眼点が違う部分もあり、勉強になりました。

ぜひ今後も今回のような実技中心の少人数での研修を行っていただけたらと思います。

九動株式会社 鶴田 優子

9月2・3日の実験動物技術研修会では講師の皆様方には大変お世話になりました。

私は通常の業務で微生物モニタリングを担当しておりますが、今回の研修で頸静脈採血のデモを見せて頂いたこと、モルモット・ハムスターの保定やウサギの経口投与を経験できたこと等、動物への処置について学んだことがとても印象に残りました。尾静脈投与や腹腔動脈採血で使用するシリンジの選び方・持ち方・刺し方を丁寧に指導して頂いたので、その内容を今後の業務の際に意識して行うように心がけたいと思います。

マウス・ラットを扱う事が多いのですが、マウスの解剖を丁寧に教えて頂いたおかげで、業務の剖検以外についても詳細を確認できました。

また、ビニールアイソレーターや器具類等の展示物もたくさん置いて下さっていて、教科書や写真でしか見たことのなかった物を実際に目で見て触れられて、本当に勉強になりました。

今回の研修をぜひ実験動物2級技術者認定試験実技試験へ活かしたいと思います。

貴重な機会を設けて下さりまして本当にありがとうございました。

一般財団法人 化学及血清療法研究所 沖田 剛

触れたことのない動物に触る機会をくださり、貴重な経験ができました。普段動物を扱わない私にとっては、大変内容の濃い研修でした。今後の動物を使った業務はマウスの使用が主となりますが、他の動物の特徴等を知れたことは今後に活かされると思います。

感想を箇条書きにすると、

- ・ハムスターは私が飼っていたハムスターに比べて数段凶暴だった。サイズも3倍くらいであった。
- ・マウスの静脈内投与が難しかった。静脈内投与は今後業務で使用するため、マスターしたい。来月から事前に練習予定。
- ・ラット、モルモットは嘔まないため、安心して触れた。
- ・自分の作業ばかりに集中すると、そのときは動物のことを考えなくなるので、周囲にも気を配りながら作業を行うことが大切だと感じた。
- ・動物愛護には色々な考え方があることを知った。反対派の組織もあることを知った。我々医療人は、人間、動物双方のことを考え、ベストな選択をする必要がある。

一般財団法人 化学及血清療法研究所 藤本 美穂

研修会では大変お世話になりました。

各種動物の取扱いについて、基本をきちんと学ぶ機会がなかったので大変勉強になりました。普段、扱うことない動物にも触れることができ、大変貴重な経験ができました。

自分なりの方法を見つけ出すにしても、基本を理解しておくことは重要だと思いますので、今回研修に参加することができ、大変良かったです。

ありがとうございました。

川澄化学工業株式会社 古賀 裕紀

この度はこのような研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

今回の研修会では、実に様々なことを学び持ち帰ることが出来たように思います。

まず、浦野教授にして頂いた実験動物概論、特に動物愛護についてのこれまでの歴史については非常に勉強になりました。動物愛護については、安研協認定技術者認定試験の試験対策をするなかでそれなりに知識をつけたつもりでしたが、その内容の歴史的な背景や現在の具体的な法制度については全く目を向けていなかったということを感じました。今回の研修会で知れたことで、後輩や周囲に対してより明確な説明を行えるようになったと思います。

次に、施設の設備説明および実技実習では、普段の業務において殆ど目にする機会の無い設備や動物について知ることができたことが大きな収穫でした。特に動物については、業務においてマウスやウサギ、モルモットといった特定の動物以外を触る機会はなかなか無いため、今回の研修会でのラットやハムスターのハンドリングや保定は、実験動物 2 級技術者試験の実技試験対策というだけでなく自身の見聞を広めるという意味でも良い経験となりました。

最後に、重ね重ねとなりますがこの度は誠にありがとうございました。ここで得た知識・技術を持ち帰り、周囲と共にさらに深めていきたいと思っております。

宇部興産株式会社 林 明盛

一日目の午前中に、浦野先生の概論講義では、大変、興味深く、拝聴させていただきました。このような機会があり、幸運でした。

実技実習では、講師の先生に丁寧に教えていただき、限られた時間内で多少、バタバタ感は有りましたが、リラックスして受けることが出来ました。本で見ただけで、したことのない内容も有り、コツのようなものも学べました。

苦手な部分も分かりましたので、今後の課題にしたいと思います。

〇〇〇 年会費納入のお願い 〇〇〇

年会費の未納の方は、早急に納入手続きをとって頂きますようよろしくお願い致します。

<年会費の支払>

所定の振込用紙（日本実験動物技術者協会の機関誌に同封）で、本部事務局までお振込みください。
なお、日本実験動物技術者協会へ新規に入会される方は、8,000 円（入会金 2,000 円と年会費 6,000 円）、更新される会員の方は、年会費 6,000 円となっておりますので、上記の金額を下記の口座までお振り込みください。

お手数をおかけしますが、以上宜しくお願い致します。

振込先 名称：日本実験動物技術者協会 口座：00130-9-102291

取扱機関：落合郵便局 TEL 03-3371-9152（東京都中野区東中野 4-27-21）

支部ニュース編集（いろいろなニュース素材をお待ちしています！！）

山本 沙代 九州大学大学院医学研究院附属ヒト疾患モデル研究センター 動物実験施設

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 E-mail:ysayo@anim.med.kyushu-u.ac.jp tel:092-642-6148 fax:092-642-6165